

1 沿革

- ①1991年 東京湾潜水探検隊
隊長 風呂田利夫 副隊長 須賀潮美
東京湾の各所を潜水探検し、当時、ドブ泥の汚い海とされていたお台場も潜りその生物の多様さ、豊富さに驚いた。
- ②1996年6月 お台場の海をきれいにするクリーンアップ大作戦開始（海上保安部がバックアップ、港区キッスポート財団主管）そのころ、現在の調査区域は、大型ゴミの捨て場になっていた。
- ③2011年4月第71回より月例調査になり2022年7月で200回目になっている。



2 目的

- ①生物調査 ②生態環境の水中ライン撮影調査
※港湾局に報告（2019年～）港湾局は、生物の棲息環境を良好化するために、覆砂を行ったが、その効果を視覚的に検証している。覆砂は、目下のところ成功の様相を示している。③研究者ダイバーのトレーニング
浅く、波浪、潮汐流が無く、限定された水域であるから、安全性が高い。



3 目標 100年継続

- ①ラインおよび定点の撮影調査は、フォーマットを決め継続することで価値が大きくなる。②特定非営利活動法人という運営形態、東京の中心にあるという立地条件は、そして限定された環境は100年継続の可能性を秘めている。

4 メンバー 役割 担当テーマ

- ①多留聖典 生物調査 研究指導 ②尾島智仁 運営、海洋環境観測
ベントス研究 ③尾島雅子 運営補佐、生物撮影、ベントス研究 ④山本徹
安全管理 ライン撮影調査 ⑤小林正昭 安全管理 ライン撮影調査
⑥三ツ橋千沙 海草など植物研究 ⑦清水義明 撮影調査
⑧山田康和 ベントスなど生物研究 ⑨臼島多美子ベントスなど生物研究
⑩依田浩太郎 細菌研究 ⑪須賀次郎 日本水中科学協会代表理事、運営企画、報告などを統括
⑫その他、年に数回くるメンバーが10人ほど、持ち込める機材に限りがあり、安全管理の面からも、メンバーを増やせる状況ではない。潜ってみたい人は、まずは、例年6月のクリーンアップ大作戦に参加してもらいたい。



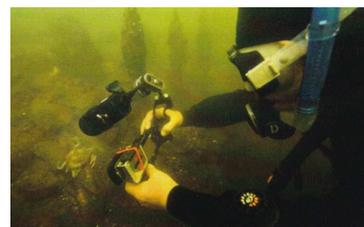
マハゼ



アカオビシマハゼ



硫黄バクテリアの膜



インガニを撮影する須賀次郎氏

【問い合わせ先】

特定非営利活動法人 日本水中科学協会 須賀次郎

〒135-0046 東京都江東区牡丹3-9-1 TEL 03-3820-6756 E-mail : jaus2010@gmail.com